

「カオの見える」活動に成果

—04年度育友会定期総会—



▲会員らを前に挨拶する久岡会長

新会長に大瀬利行氏

04年度育友会定期総会が5月15日、神田キャンパスで開催された。議案承認後新役員を選出し、新会長に大瀬利行氏を選任した。総会后に新ユニホームで全学応援団チアリーダーの応援演技が披露された後、講演会が開かれ、大林守国際交流センター長が本学の国際交流について講演した。

総会には本部役員、全国の支部役員、一般会員と大学教職員

ら245人が出席した。妹尾价章副会長の司会で進められ、久岡清太会長は「この1年、カオの見える、分かり易い育友会活動をと心がけ、学生のための援助活動などさまざまな事業を展開してきたが、まだまだやることがあると感じております。本日はその検証をしたい」とあいさつした。出牛正芳理事長・学長は「育友会活動、とりわけ支部懇談会は、大学側も一体となって取り組んでおります」と呼びかけ、来賓の小林清校友会長からもエールが送られた。

議事に入り、03年度事業報告、同収支決算・同監査報告が行われ、続いて04年度の事業計画(案)、収支予算(案)はいずれも承認、可決された。さらに本部新役員選出の報告がなされ、満場の拍手をもって承認。大瀬新会長ら新執行部体制がスタートした。

大瀬新会長は今後も育友会の活性化へ尽力したいと述べ「大学を取り巻く環境は大きく変わってきています。育友会が大学にどのように貢献できるかを探り“応援団”としてもパワーアップしていきたい。会員の皆さんには絶大なご支援をお願いいたします」と力強くあいさつした。大瀬会長から出牛理事長に「育友文庫」図書目録が贈られたあと、第3回育友会奨励賞受賞の3団体6人の表彰式が行われ、表彰者のプロフィールが紹介されるたびに、会場から温かい拍手が送られた(表彰者名は本紙402号＝04年3月号に既報)。最後に久岡前会長が退任役員を代表してあいさつし、稲垣清津男副会長が閉会の辞を述べ終了した。

新会長の横顔 大瀬 利行さん



学生支援のプログラムの浸透を

「時代に即応した育友会活動を進めていきたいと思いません」。抱負を語る穏やかな表情の中に、強い意志が伝わってくる。

「経済状況など厳しい社会情勢の中、学生の就職戦線も苦戦を強いられ、日本は変革の時を迎えているのでは。こんな時代にこそ、大学と一体となって学生の活力

を引き出していきたい」

現在、公認会計士を目指し勉強中の長男が、千葉県幕張総合高から専大経済学部に入學した時、幹事に推された。「大学にもこんな父母組織があるのかと『興味を持った』とアンケート調査に答えたせいでしょうか」と笑う。

活動に参加するうち46年もの歴史を持つ同会は父母、学生ばかりでなく大学にとっても有意義な存在であることを実感。その後2年間、副会長を務め、育友会奨励賞、同奨

学生制度など学生支援プログラムを積極的に進めてきた。今後は「同プログラムを学生の間にもっと浸透させたい。夏の支部懇談会運営の充実へ、父母の要望を活動に取り込んでいきたいですね。懸案は、関東地区就職シンポジウムの開催と、外国人留学生父母の育友会活動への協力ですが、実現へ一歩進めていきたい」考えた。さらに「体育会支援にも積極的に取り組みます。スポーツが盛んでないと大学は元気が出ません」。

鎌倉市に生まれ、大学入学まで青森県で育った。32年間勤めた住友海上から6年前オーストラリアのQBE保険日本支社に転籍、経理部長として支社の運営全般に参画している。

座右の銘を問うと「坂本竜馬が西郷隆盛を評した言葉が印象に残っています。西郷の太鼓は、大きく叩けば大きく響く。小さく叩けば小さく響く。大胆にして繊細に。そんな生き方が好きですね」。61歳。

【ニュース専修2004年6月号4面】